The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	《資料紹介》『新夕刊』文藝記事目録（一九四七）
Author(s)	斎藤, 理生
Citation	阪大近代文学研究. 2025, 23, p. 53-74
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/101057
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

《資料紹介》『新夕刊』文藝記事目録（一九四七）

斎藤　理生

本稿は、敗戦直後の新聞『新夕刊』に掲載された、一九四七年一月から一二月までの文藝記事の所在を記したものである。『昭和文学研究』第九〇集（二〇二五・三）掲載の拙稿「《資料紹介》『新夕刊』文藝記事目録（一九四六）―「世にも不思議な新聞社」の輪郭」の続編にあたる。

『新夕刊』の概要については、右の資料紹介と、「解説・一九四七年の「新夕刊」と坂口安吾、三島由紀夫」（『新潮』二〇二四・七）とを参照されたい。ここでは要点のみ述べておく。『新夕刊』は、一九四六年一月から東京で発行されていた新興夕刊紙であった。創刊時から四七年秋にかけて、小林秀雄、林房雄、河上徹太郎、亀井勝一郎、永井龍男、吉田健一ら、いわゆる鎌倉文士を中心とした、多くの文学者が参画したことで知られる。この約二年間は、当時の他の新聞と同じように、表と裏の二面しかなかったにもかかわらず、文藝文化に関わる記事が積極的に掲載されていた。吉田健一「世にも不思議な新聞社の話」（『三文紳士』宝文館、一九五六）など、当時の社内の闊達な雰囲気を語った回想も少なくない。ただし、一九四七年末になると文学者が深く関わることはなくなり、一般的な新聞に近くなる。

この二年間の『新夕刊』はほとんど残存しておらず、実際の紙面を確認することは難しい。しかし二〇二四年、日本新聞博物館が多数所蔵していることがわかり、原紙を閲覧する機会が得られた。その中からすでに、小林、坂口安吾、三島由紀夫らの、これまで知られていなかった資料も発掘されてきた（前掲の拙稿二編を参照されたい）。

ただ、『新夕刊』には他にも、亀井、河上、吉田らの全集未収録資料が含まれている。また、菊池寛の将棋に関する随想や、競馬に関する座談会も、『菊池寛全集』（文藝春秋、一九九三―二〇〇三）に収められていない。最新の書誌情報を収めた大西良生著・菊池寛記念館編『菊池寛研究年譜』（菊池寛顕彰事業実行委員会、二〇二四）にも記載がない。

ちなみに、これらの菊池に関わる記事は、いかにも『新

夕刊』らしい内容でもある。創刊号の「自由な新聞＝創刊の言葉＝」（一九四六・一・一八）では「我々は「自由な楽しい新聞」を創る」と、娯楽性が強調されていたからだ。

さらに、林芙美子の随想も、全集はもちろん、廣畑研二『林芙美子全文業目録　未完の放浪』（論創社、二〇一九）に未記載である。羽田義明「太宰治の結婚」という記事には、太宰のこれまで知られていなかった談話が含まれる。この他にも、重要な資料が眠っているかもしれない。

一九四七年の『新夕刊』には、多くの新興紙と異なり、連載小説がない。代わりに、林房雄の「文藝日評」をはじめ、多くの評論や随想が掲載されている点が特徴である。林は六月二四日の「文藝日評」で、次のように述べている。

新夕刊文藝欄もいよいよ五段になつた。文化部長の式場俊三君が去り、昔讀賣にゐた労連の眞野律太君が代つた。副社長の永井龍男、参与の小林秀雄、亀井勝一郎、中野實、吉田健一、漫画部の横山隆一、清水崑、田川水泡、元文化部長の河上徹太郎、現社会部長の倉光俊夫君なども局内局外から大いに手伝つてくれることになつた。楽しい文藝欄ができるにちがひない。これだけの顔ぶれがそろつてゐて面白くなかつたらどうかしてゐる。

長くは続かなかった「楽しい文藝欄」の実態は、はたしてどのようなものであったのか。さしあたり、文藝関係の記事の掲載日、タイトル、執筆者を記録することで、その輪郭だけでも共有するべきだろうと考えた。

なお、日本新聞博物館も、すべての号を所蔵しているわけではない。特に、一九四七年七月六日から八月一六日にかけての約一か月分がない。したがって、その期間に発表された文藝記事については不明である。たとえば、第五次『小林秀雄全集』（新潮社、二〇〇一～二〇一〇）には、四七年六月の『新夕刊』に掲載されたと推測されている座談会「旧文學界同人との対話」が収録され、『小林秀雄全集別巻Ⅱ無私を得る道』（新潮社、二〇〇二）の「年譜」や「作品解題」にも記載されている。しかし、四七年六月の紙面に、この座談会は見当たらない。そのため、原紙が見つかっていない七月から八月の間に掲載された可能性が高い。一方で、後に掲げている、九月一〇日から一七日まで連載された「文学座談会」は、第五次までの『小林秀雄全集』に未収録で、年譜にも掲載されていないものである。

『新夕刊』にはマンガ、演劇、映画、美術、音楽などの記事もあるが、原則として省略した。四七年九月以降には、一面に丸尾長顕のコラム「茶卓」や、秋山安三郎や眞野律

太らによる「ニュースを追って」という読物風の署名記事が掲載されている。これらも文藝記事と見ることは可能である。しかし、紙幅を多く取ってしまうために省略した。

1947（昭和22）年

1・1 ① 捕鯨船鯖説　玉川一郎
1・3 ① 新春随想　我事に於て後悔せず　小林秀雄
1・4 ① 新春随想　高等官三等　林芙美子
1・5 ① 餅　宮崎博史
1・6 ① 名物を一ヶ所に集めて　忘られぬ観光列車の乗心地　蔵書家　齋藤昌三
1・7 ① プリングスハイム氏の言葉　渡邊一夫
1・8 ① 見ぬ恋　澁澤秀雄
1・9 ① 鋳物　佐瀬利吾郎
1・11 ① 石橋大臣に　高田保
1・13 ① 仮装人生　宮崎博史
1・14 ① 放送種　辰野隆
1・16 ① 買出し　佐瀬利吾郎
1・18 ① 高価な結婚式　宮崎博史
1・19 ① 吉凶　含宙軒夢聲
1・20 ① 住宅難　中野實
1・21 ① ダンス流行　佐瀬利吾郎
1・22 ① 地震予知について　渡邊一夫
② 将棋　名人に挑戦するは誰か　萩原、大野、塚田の実力如何（上）菊池寛
1・23 ① 八ツ当たり　玉川一郎
② 将棋　名人に挑戦するは誰か　萩原、大野、塚田の実力如何（下）菊池寛
1・24 ① 満員住宅　宮崎博史
1・25 ① 筍の話　玉川一郎
1・26 ① 天晴れご注文　含宙軒夢聲
1・27 ① 湯屋の話（上）　秋山安三郎
1・28 ① 湯屋の話（下）　秋山安三郎
1・29 ① はじめて　玉川一郎
1・30 ① 機智　関口次郎
② 文藝日評（1）本道　林房雄
1・31 ① 電車性脱臼　佐瀬利吾郎
② 文藝日評（2）スキイ　林房雄
2・1 ① 世情邪見　宮崎博史
② 文藝日評（3）文閥　林房雄
2・2 ① 馬鹿は　含宙軒夢聲
② 文藝日評（4）詩人問答　林房雄

2・3 ① エロスの復讐　亀井勝一郎
② 文藝日評（5）迷信　林房雄
2・4 ① 籤に就いて　玉川一郎
文藝日評（6）挿絵　林房雄
2・5 ① 女のたしなみ　澁澤秀雄
② 文藝日評（7）エロス　林房雄
2・6 ① 嘘発見器　亀井勝一郎
② 文藝日評（8）エロス（下）　林房雄
2・7 ① 習字　宮崎博史
② 文藝日評（9）スリラア　林房雄
2・8 ① 役徳　佐瀬利吾郎
② 文藝日評（10）スイコ伝　林房雄
2・9 ① 華氏の20度　含宙軒夢聲
② 文藝日評（11）道鏡（上）　林房雄
2・10 ① ダンスホール　玉川一郎
② 文藝日評（12）道鏡（中）　林房雄
2・11 ① 大人悪童　宮崎博史
2・12 ① 世界共通の文学　木々高太郎
② 文藝日評（13）道鏡（下）　林房雄
2・13 ① 介山と村正　浅野武男
文筆家ゼネスト戦術へ
② 鎌倉文庫問題の波紋　大内教授談
文藝日評（14）新円小説　林房雄
2・14 ① 不買同盟　佐瀬利吾郎
② 文藝日評（15）小説の型　林房雄
2・15 ① 昔気質　大佛次郎
② 文藝日評（16）似すぎる　林房雄
2・16 ① あまのじゃく　高見順
② 文藝日評（17）闇小説　林房雄
2・17 ① それからそれ　秋山安三郎
② 文藝日評（18）創作　林房雄
2・18 ① ダンスについて　渡邊一夫
② 文藝日評（19）探偵小説　林房雄
2・19 ① うけごたえ　関口次郎
② 文藝日評（20）批評青年　林房雄
2・20 ① 退職の理由　宮崎博史
② 文藝日評（21）ユーモア　林房雄
2・21 ① 先生に教える　秋山安三郎
2・22 ① 納税風景　澁澤秀雄
② 文藝日評（22）夢　林房雄
2・23 ① 近火　含宙軒夢聲
② 文藝日評（23）大浪曼家（上）　林房雄

2・24 ① 東洋の美学　中山義秀
② 文藝日評（24）大浪曼家（下）　林房雄
2・25 ① 燃料難　芹沢光治良
② 文藝日評（25）不感症　林房雄
2・26 ① 一尺六寸について　玉川一郎
② 文藝日評（26）佳作　林房雄
2・27 ① 平和の切腹　佐瀬利吾郎
② 文藝日評（27）メダカ　林房雄
2・28 ① イヌノフグリ　高見順
② 文藝日評（28）作文　林房雄
3・1 ① 漫画に就いて　宮崎博史
② 文藝日評（29）天皇創造　林房雄
3・2 ① 断酒　含宙軒夢聲
② 文藝日評（30）詩と真実（上）　林房雄
3・3 ① 燃料譚　玉川一郎
② 文藝日評（31）詩と真実（中）　林房雄
3・4 ① 民主社長　宮崎博史
② 文藝日評（32）詩と真実（下）　林房雄
3・5 ① 帽子愛用　佐瀬利吾郎
② 文藝日評（33）緑波　林房雄
3・6 ① 売り声　玉川一郎
② 文藝日評（34）夢声　林房雄
3・7 ① 質屋踊り　鍋一郎
② 文藝日評（35）佳作　林房雄
3・8 ② 文藝日評（36）溜飲　林房雄
3・9 ① フクチヤン帖　含宙件夢聲
② 文藝日評（37）苦楽　林房雄
3・10 ① 天才　宮崎博史
② 文藝日評（38）源泉（上）　林房雄
3・12 ① 当世奇人傳　浅野武男
② 文藝日評（40）力作　林房雄
3・13 ① 報知への願ひ　玉川一郎
② 文藝日評（41）忠言　林房雄
3・14 ② 文藝日評（42）地獄絵　林房雄
3・15 ② なぞなぞ　佐瀬利吾郎
春の競馬を語る（1）第一回の本馬場　菊池寛・田中和一郎・岡田光一郎（以下出席者略）　林房雄
文藝日評（43）嗚呼！
3・16 ② 春の競馬を語る（2）
トキノミドリとトキノホシ
文藝日評　大先生　林房雄

3・17 ② 春の競馬を語る（3）サラ四歳の有望組　佐瀬利吾郎
3・18 ② 危機　含宙軒夢聲
春の競馬を語る（4）四歳牝馬特別を狙う　林房雄
馬　林房雄
文藝日評　超越　林房雄
3・19 ② 住宅問題　芹沢光治良
春の競馬を語る（5）アラブ四歳の有望組　林房雄
文藝日評　アメリカ映画　玉川一郎
3・20 ② コワイ話　玉川一郎
春の競馬を語る（終）障害馬の形勢　林房雄
文藝日評　人間喜劇　宮崎博史
3・21 ② 運動神経　林房雄
文藝日評　実存主義　林房雄
3・22 ② 文藝日評　佳作　林房雄
3・23 ② 文藝日評　変種　林房雄
3・25 ② 荷風文学　渡邊一夫
文藝日評　発狂　林房雄
3・26 ② 獣人　中山義秀
文芸日評　米化　林房雄
3・27 ② 大盗と小盗　亀井勝一郎
文芸日評　非机上論　林房雄
3・28 ② 恐るべき子供　林房雄
文芸日評　空想　林房雄
3・31 ② 文芸日評　非小説　玉川一郎
4・1 ② 警察の問題　林房雄
文芸日評　祝儀　木々高太郎
4・2 ② 捕物帖について　林房雄
文芸日評　困った話　宮崎博史
4・3 ② 結婚とは？　林房雄
文芸日評　政治と文学　林房雄
4・4 ② 文芸日評　失語症　林房雄
4・5 ② 文芸日評　笑ふ男　林房雄
4・6 ② 文芸日評　戯作　亀井勝一郎
4・7 ② 人類とは何ぞ　林房雄
文芸日評　休息　含宙軒夢聲
4・8 ② 長命　林房雄
文芸日評　佳作抄　澁澤英雄
4・9 ② ひよどり　林房雄
文芸日評　新劇（上）　川路柳虹
文化人のみた春の服装　木村荘八
日本人らしさ
もっと訓練を

モンペはやめて　邦正美
4・10　②　四月の磯にて　文芸日評　新劇（中）　石塚友二
4・11　②　大きな名刺　文芸日評　新劇（下）　林房雄
4・13　②　文芸日評　最高峰　宮崎博史
4・14　②　文芸日評　通俗　林房雄
4・15　②　笑つて答へず　文芸日評　啓蒙　林房雄
4・16　①　今日のことば　簡体字をつくれ　河盛好蔵
②　ポスター　文芸日評　怪奇小説　林房雄
4・17　②　精神と選挙風景　文芸日評　賀辞（上）　神西清
4・18　②　新しい区長　文芸日評　賀辞（中）　林房雄
4・19　②　エロチシズム　文芸日評　賀辞（下）　林房雄
4・20　②　文芸日評　冒険小説　林房雄
4・23　②　十年の小計　文藝日評　蜜蜂と蟻　林房雄
4・24　②　子供の悪戯　文藝日評　断地獄篇　林房雄
4・25　②　名演説　文藝日評　追放　林房雄
4・27　②　智能検査　文藝日評　短篇小説　林房雄
4・28　②　火災恐怖症　文藝日評　鏡の園　林房雄
4・29　②　当選短篇小説　片隅　選評　林房雄
4・30　②　種蒔　文藝日評　区別　林房雄
5・1　②　種萌えたり　文藝日評　自信　石塚友二
5・2　②　御用心　文藝日評　恋文　林房雄
5・3　①　新憲法の讃歌　日本国新憲法　文藝日評　中央小説　林房雄
5・4　②　こども新語　宮崎博史

文藝日評　騎士　林房雄
5・5　②　文藝日評　露出　林房雄
5・6　②　当選短篇小説　額　黒鬼三夫
選評　林房雄
文藝日評　ストーリイ　林房雄
5・7　②　村の二日　玉川一郎
文藝日評　聖裸体　林房雄
5・9　②　台湾外記　西川満
文藝日評　馬耳東風　林房雄
5・12　②　文藝日評　恋愛佳作抄　林房雄
5・13　②　当選短篇小説　落語　メダカ料理　水谷要
選評　林房雄
文藝日評　俗談　林房雄
5・15　②　藝術と政治―個人と政党―　上司小剣
文藝日評　誠実　林房雄
5・16　②　内助　佐瀬利吾郎
文藝日評　畸形　林房雄
5・17　②　映画と連句　小津安二郎
文藝日評　公式　林房雄
5・18　②　文藝日評　サルトル　林房雄
5・19　②　文藝日評　伝統　林房雄
5・20　②　当選短篇小説　音楽会　徳田奈子
選評　林房雄
文藝日評　捕虜文学　林房雄
5・21　②　古典夢の国　亀井勝一郎
文藝日評　玉葱小説　林房雄
やさしい言葉を　長田恒雄（談）
5・22　②　家庭とダンス　芝木好子
文藝日評　労働文化　林房雄
5・23　②　猫鍋　含宙軒夢聲
文藝日評　茶道　林房雄
5・24　②　最近の文学観　上司小剣
文藝日評　運命　林房雄
5・26　②　文藝日評　アメリカ物語　林房雄
5・27　②　当選短篇小説　墓盗人　藤野東作
文藝日評　誤認　林房雄
5・28　②　土曜日　宮崎博史
婦人雑誌評　古谷綱武
文藝日評　編輯青年　林房雄
5・29　②　文藝日評　編輯青年（中）　林房雄
5・30　②　文藝日評　編輯青年（下）　林房雄
5・31　②　宗教と共産主義　宗教時評　亀井勝一郎

6・1 文藝日評　共感　林房雄
6・2 ② 文藝日評　組みちがひ　林房雄
同時代人にふりかける薬味【一】
＝詩壇時言＝　菊岡久利
教育時評　国定教科書の改革　亀井勝一郎
文藝日評　佳作　林房雄
6・3 ② 当選短篇小説　悪魔のしっぽ　白柳美彦
選評　林房雄
6・4 ② 文藝日評　楽しい玩具　林房雄
同時代人にふりかける薬味＝（二）
＝詩壇時言　菊岡久利
ストレーチイの再評価（上）　吉田健一
6・5 ② 文藝日評　市民大学　林房雄
同時代人にふりかける薬味＝（三）＝
詩壇時言　菊岡久利
ストレーチイの再評価（下）　吉田健一
6・6 ② 文藝日評…115…大往生（上）　林房雄
私小説は非小説　文藝家協会委員会の意見
木々高太郎
6・7 ① ヒトラーの焚書に似た一部著作家の除外
ペンクラブ問題　連合国記者の意見
対外的に〝微妙〟　当分遠慮してもらう
新居格氏
笑えぬ喜劇　佐々木孝丸氏
6・8 ② 文藝日評…116…大往生（中）　林房雄
文助の漂流　西川満
6・9 ② 文藝日評…117…日本小説（上）　林房雄
風俗時評（上）着物パレード　澁澤秀雄
文藝日評…118…大往生（下）　林房雄
回復の夢＝結核予防によせて＝　芹澤光治良
風俗時評（下）着物パレード　澁澤秀雄
6・10 ② 文藝日評…119…日本小説（下）　林房雄
当選短篇小説　兄　多田純
選評　林房雄
6・11 ② 文芸日評…120…新読物？　林房雄
文藝時評（1）＝敬称を略す＝　丹羽文雄
6・12 ② 文藝日評…121…ヘンテコ星　林房雄
文藝時評（2）＝敬称を略す＝　丹羽文雄
6・13 ② 文藝日評…122…人間　林房雄
文藝時評（3）＝敬称を略す＝　丹羽文雄
6・14 ② 文藝日評…123…東京　林房雄
文藝時評（4）＝敬称を略す＝　丹羽文雄

美術時評（上）画壇の凸凹　正木篤三
6・15　文藝日評…124…オール読物　林房雄
文藝時評（5）＝敬称を略す＝　丹羽文雄
6・16　文藝日評…125…ダイジエスト　林房雄
『東京哀詩』と薔薇座【上】　菊田一夫
6・17　文藝日評…126…新生活　林房雄
当選短篇小説　写真　高松善次郎
選評　林房雄
6・18　文藝日評…127…珠玉　林房雄
短歌時評（上）歪んだ窓　岡山巌
黄金の隼　吉田健一
〝東京哀詩〟と薔薇座【下】　菊田一夫
6・19　文藝日評…128…暴力　林房雄
短歌時評（中）窓にすがる　岡山巌
受難に立つ新しき美　青年作家同盟主催
〝文学の夕べ〟録音　伊藤整（談）
春婦傳　書評　大竹正巳
6・20　文藝日評…131…自由主義（上）　林房雄
短歌時評（下）歌人らしい歌人　岡山巌
粗略な人間扱い　寺崎浩
6・21　文藝日評…132…自由主義（中）　林房雄
詩壇時評（上）詩と詩人の悲劇　西川満
川柳時評（1）寸鉄殺人のゆくえ　石原青龍
6・22　文藝日評…133…自由主義（下）　林房雄
詩壇時評（中）酒尽きぬまに　西川満
川柳時評（2）新人出でず　石原青龍
6・23　文藝日評…134…諷刺文学　林房雄
詩壇時評（中）光る雨の櫛で　西川満
川柳時評（3）笑えない喜劇　石原青龍
6・24　文藝日評…135…自叙　林房雄
当選短篇小説　贈物　中村光一
6・27　文藝日評…138…幻影　林房雄
〝文學界〟と自分―（下）―　河上徹太郎
新人は語る　ダンディスム礼讃　柴田錬三郎
6・28　文藝日評…139…邪教　林房雄
文藝時評（1）小説六つ　古川緑波
新仮名遣ひに就て（1）　上林
暁・丹羽文雄・井上友一郎・久保田万太郎
6・29　文藝日評…140…幻滅（上）　林房雄
文藝時評（2）谷崎の〝細雪〟と里見の〝十年〟　古川緑波

ともすれば　上村占魚
新仮名遣ひに就て（2）阿部知二　飯田蛇笏
米国の反共政策　吉田健一
新人は語る　言ひがかり的抱負　三島由紀夫
6・30　②　文藝日評…141…幻滅（下）　林房雄
文藝時評（3）宇野浩二の近業　古川緑波
新仮名遣ひに就て（3）日夏耿之介　桑原武夫
随筆　ほたる草の歌　前田夕暮
7・1　②　文藝日評…142…モデル　林房雄
当選短篇小説　敗戦　山中秀夫
選評　林房雄
文藝手帖　上田廣
連合美術展をみる　矢崎武子
7・2　②　文藝時評（4）新刊書三三　古川緑波
新人は語る　わが文学の抱負　北條誠
国会と国民娯楽　兼常清佐
7・3　②　文藝日評…143…独断　林房雄
探偵小説と民主々義　リチャード・ヒューズ
玉ラムネ　澁澤秀雄
文藝時評5　エロ文学に就て　古川緑波
7・4　②　文藝日評…144…教祖論（1）　林房雄
読書問答―（1）―　日夏耿之介
フランスの詩　吉田健一
7・5　②　文藝日評…145…教祖論（2）　林房雄
読書問答―（2）―　日夏耿之介
8・18　②　文藝　フオースターの近況　吉田健一
左平次時代（1）　日夏耿之介
言葉の系図に就て（上）　長田恒雄
8・19　①　露伴先生断片　安成二郎
当選短篇小説　飾窓　佃弘
選評　林房雄
太宰治の長篇から　原奎一郎
8・20　①　世界最初の探偵小説　吉田健一
左平次時代（2）　日夏耿之介
言葉の系図に就て（下）　長田恒雄
8・21　②　国滅びず　加藤雅民
左平次時代（3）　日夏耿之介
文藝時評1　十蘭の「鶴鍋」　西川満
姦通　寺崎浩
8・22　②　第二藝術に問ふ（上）　岡山巌

文藝時評2　葦平の「亡霊」　西川満
残暑漫筆　上司小剣
8・23　②　学士院と藝術院　亀井勝一郎
第二藝術に問ふ（下）　岡山巌
ひしがれる文化　堀内敬三
文藝時評3　新時代記念碑　西川満
ダイヤの指輪　栗谷薫
8・25　②　文藝日評―162―偶像崩壊　林房雄
洪水におもふ　伊藤永之介
娯楽結構なれど―小説の面白さに就て（上）　木村荘十
8・26　②　文藝日評―163―文明批評（上）　林房雄
当選短篇小説　虹の橋　前田昌夫
選評　林房雄
ばらの手　伊藤海彦
ざりがに（上）　小宮義孝
8・27　②　文藝日評…164…文明批評（下）　林房雄
虚栄心で読むなかれ　小説の面白さに就て（中）　木村荘十
ざりがに（中）　小宮義孝
8・28　②　文藝日評…165…全人　林房雄
穢らはしい心　小説の面白さに就て（下）　木村荘十
ざりがに（下）　小宮義孝
8・29　②　文藝日評―166―遺物　林房雄
夏目家の場合　著作権の危機に就て　野田宇太郎
西洋小説と基督教　亀井勝一郎
文藝時評1〝恋にあらず〟の示唆　鹿島孝二
8・30　②　文藝日評―167―地獄　林房雄
小売店の実例　著作権の危機に就て（中）　野田宇太郎
ラムプ　伊藤海彦
文藝時評2〝恋にあらず〟の示唆　鹿島孝二
8・31　②　文藝日評―168―政党同人雑誌　林房雄
知性喪失日本　著作権の危機に就て（下）　野田宇太郎
稲の花　吉植庄亮
文藝時評3〝恋にあらず〟の示唆　鹿島孝二
9・1　①　文化日評　美名のインフレーション　亀井勝一郎
②　文藝日評―169―政治と文学　林房雄

情熱あるウソ　大衆文学の在り方　今井達夫
私と短歌（上）　川上喜久子
9・2　②　文藝日評―170―通俗論　林房雄
私と短歌（中）　川上喜久子
9・3　②　文藝日評―171―三十代（1）　林房雄
ユーモア論　亀井勝一郎
私と短歌（下）　川上喜久子
9・4　②　文藝日評―172―三十代（2）　林房雄
琴を恋ふ　堤千代
美しい話し方　岡本太郎
9・5　②　文藝日評―173―三十代（3）　林房雄
新人は語る　上　何れも箱庭小説　小笠原貴雄
人間電気　川路柳虹
9・6　②　文藝日評―174―三十代（4）　林房雄
新人は語る　中　雑誌へ哀訴　小笠原貴雄
二号の問題　寺崎浩
生活の音楽　野村光一
9・7　②　文藝日評―175―三十代（五）　林房雄
放送局に就て（上）　石川達三
新秋小吟　吉野秀雄

出でよ戦争文学　新人は語る　下　小笠原貴雄
邪教と科学的知識　森口多里
9・8　②　文藝日評―176―蒙昧論（1）　林房雄
放送局に就て（下）　石川達三
露伴と台湾文学　西川満
貿易と藝術　正木篤三
9・9　②　文藝日評―177―蒙昧論（2）　林房雄
当選短篇小説　修行僧たち　室町たかし
文化の整理　平山蘆江
9・10　②　文学座談会1　今は小説時代　批評家は天の邪鬼　小林秀雄　舟橋聖一　亀井勝一郎　林房雄（以下出席者略）
瀬戸内海　岡山巌
9・11　②　文藝日評―178―蒙昧論（3）　林房雄
文学座談会2　娯楽も修業だ　まづ近いところから
新仮名遣に反対す　春野鶴
余聞　吉田健一
9・12　②　文藝日評―179―蒙昧論（4）　林房雄
文学座談会3　宗達の画　ふかい喜びがある

一つの事件　本多顕彰

9・13 ②
文藝日評―180―蒙昧論（終）　林房雄
文学座談会4　なぜ歌舞伎は古典に祭りあげられたか

9・14 ②
文藝日評―181―健康探偵小説　林房雄
文学座談会5　古典文学の美　歌舞伎はほろびず

9・15 ②
文藝日評―182―煽情小説　林房雄
文学座談会6　現代の黙阿弥　川口松太郎を認める
文藝時評　通俗に就いて　北條誠

9・16 ②
文藝日評―183―愛国主義　林房雄
当選短篇小説　孝行息子　高麗由貴夫
さくらの花＝桑港抒情集のうち　土橋治重
串カツと文学　土師清二

9・17 ②
文藝日評―184―道学者論（1）　林房雄
文学座談会（終）　詰らぬ藝術祭　観覧料はきつと上る
パリの美　佐藤敬

9・18 ②
文藝日評―185―道学者論（2）　林房雄
書評　本格小説の在り方　神西清氏『恢復期』を読む　吉田健一
読書点滴　上　紙魚の冤罪　西川満
川柳時評　上　『川柳寄席』の反響　石原青龍

9・19 ②
文藝日評―186―道学者論（3）　林房雄
農村文化の将来　新関良三
読書点滴　中　紙魚の冤罪　西川満
川柳時評　2　川柳人クラブの意義　石原青龍

9・20 ①
人生日評　幸福とは何？　帆足理一郎

②
戦後の日本に関心〝中国青年〟の動向をかたる謝泳心女氏
文藝日評―187―道学者論（4）　林房雄
新人発掘について　福田清人
読書点滴　下　紙魚の冤罪　西川満

9・21 ②
文藝日評―188―道学者論（終）　林房雄
文藝時評　小説と年齢　大林清
婦人雑誌評　女学生雑誌の視野　古谷綱武
川柳時評　龍寶寺再建寄進問題　石原青龍

9・22 ②
文藝日評―189―放送官僚　林房雄
文藝時評　中　戯作精神に就いて　大林清
堺さんと上司さん―亡き人々の思ひ出

川柳時評「番傘」の句　安成二郎
9・23 ②
女流作家の米映画座談会　石原青龍
文藝日評―190―印税（上）
悲しき魚　林房雄
文藝時評　下　速かに故郷へ帰れ　佐藤垢石
9・24 ②
文藝日評―191―印税（下）　大林清
9・25 ②
文藝日評―192―怪談（上）　林房雄
夏祭り秋祭り＝絶筆＝　林房雄
世界の窓　上司小剣
9・26 ②
文藝日評―193―怪談（下）　菱山修三
蛍光灯（上）ずゐ筆　林房雄
大臣と文学　阿部金剛
9・27 ②
文藝日評―193―青年作家　岡田三郎
蛍光灯（中）ずゐ筆　林房雄
書窓　阿部金剛
9・28 ②
盲目　西川満
蛍光灯（下）ずゐ筆　亀井勝一郎
作品と女性美　阿部金剛
9・29 ②
第二紀会の在り方　美川きよ
日本的美学　宮本三郎
美術家の生きる道　岡本太郎
文藝日評―196―田舎記者（1）　中谷ミユキ
新しい詩人群　林房雄
9・30 ②
文藝日評―197―田舎記者（2）　草野心平
当選短篇小説　仮面　林房雄
大衆雑誌評（1）キング　張替久男
詩壇時評　上　「暗愚小伝」の場合　宮崎博史
10・1 ②
文藝日評―198―田舎記者（3）　江口榛一
麒麟と駑馬（上）　林房雄
大衆雑誌評（2）にっぽん　火野葦平
「ストレンジヤー」―桑港抒情集から―　宮崎博史
詩壇時評　下　詩の会の諸性格　土橋治重
10・2 ②
文藝日評―199―田舎記者（4）　江口榛一
麒麟と駑馬（下）　林房雄
児童文化の基礎　火野葦平
中国の文化人　滑川道夫
10・3 ②
文藝日評―200―田舎記者（終）　寺田良蔵
放送局と著作権　石川達三氏に答ふ　林房雄
春日由三

大衆雑誌評（3）ホープ　宮崎博史
中国出版界のインフレ　坂本徳松
10・4 ② 文藝日評―201―日本小説　林房雄
〝文学〟といふ職業　吉田健一
手近かなところから　森岩雄
第二藝術私語　長田恒雄
書窓　西川満
10・5 ② 文藝日評―202―　小説伝統（上）　林房雄
放送余韻（上）　南江治郎
大衆雑誌評（4）新読物　宮座博史
10・6 ② ドイツ映画の復興　太田良介
著作権侵害　亀井勝一郎
近代美術館の構想
―西洋美術名作展に就て　谷川徹三
放送余韻（下）　南江治郎
大衆雑誌評（5）新青年　宮崎博史
10・7 ② 文藝日評―203―　小説伝統（下）　林房雄
ピカソと体力　宮田重雄
10・8 ② 文藝日評―204―　漫画　林房雄
時代小説に就いて　貞金敏明
10・9 ② 文藝日評―205―　抗議（1）　林房雄
終戦後の独逸文学界　本田良介
ずゐひつ　ベラグラの話　筒井潔
10・10 ② 文藝日評―206―　抗議（2）　林房雄
学べ民主化　米映画を語る座談会（1）
澁澤秀雄・岡野英規・菊田一夫・春山行夫・島照・伊勢壽雄（以下出席者略）
文壇と十五年　思ひ出の作家の顔（上）
三宅正太郎
重の井　田中秀一
10・11 ② 文藝日評―207―　抗議（3）　林房雄
観るのは義務＝米映画を語る座談会（2）
文壇と十五年　―思ひ出の作家の顔（中）
三宅正太郎
10・12 ② 文藝日評―208―　低脳の解説　林房雄
大概の小説は必ず映画化
＝米映画を語る座談会（3）
文壇と十五年　―思ひ出の作家の顔（下）
三宅正太郎
10・13 ② どんな映画をぜひ見せたい
＝米映画を語る座談会（4）
女に　安島公治

10・14 ② 文藝日評―209― ロマネスク　林房雄
当選短篇小説　陸橋　前田昌夫
今後の日本に何を示唆する
＝米映画を語る座談会（5）
10・15 ② 漢字制限　寺崎浩
戦後の流行語〝心温まる〟
＝米映画を語る座談会（6）
画家と放浪性　林武
文藝時評　茶坊主評論　亀井勝一郎
10・16 ② 文藝日評―210― 権力慾　林房雄
旅の雑感　二つの世界　鈴木安蔵
高い生活のレベル
＝米映画を語る座談会（7）
10・17 ② 文藝日評―211― 二十代　林房雄
国立劇場未し　澁澤秀雄
文藝時評　戦争体験の文学　大竹正巳
わすれさせる生活の苦しみ
＝米映画を語る座談会（8）
10・19 ② 文藝日評―212― 一元論　林房雄
なな癖（1）　里見弴
ハッピー・エンドを支持
＝米映画を語る座談会（9）
10・22 ② 文藝日評―214― 自伝（二）　林房雄
〝河童〟の文学（上）　貫田不二夫
なな癖（4）　里見弴
最近の新人　十返肇
10・23 ② 〝河童〟の文学（中）　貫田不二夫
なな癖（5）怠惰癖　里見弴
太宰治の結婚　羽田義明
10・24 ② 〝河童〟の文学　（下）　貫田不二夫
なな癖（6）　里見弴
映画時評　京都派の危機　樋爪五郎
忘れられたもの　岡邦雄
10・25 ② 文藝日評―215― 素直　林房雄
知育を偏重すべし　本多顕彰
10・26 ② 文藝日評―216― 通俗再論　林房雄
文藝時評　新人論　野間宏
10・27 ② 文藝日評―217― 大衆小説　林房雄
おもしろい小説（上）鑑賞能力豊かなる
べし　今井達夫
農村への感情　貞金敏明
書窓　西川満

10・28 ② 当選短篇小説　秋出水　土屋寛
選評　林房雄
10・29 ② 文藝日評―218―　企業論　林房雄
おもしろい小説（中）それからときかれない小説　今井達夫
水の表情　川島理一郎
よめ・しうと　寺崎浩
10・30 ② 演劇・映画の野蛮性　森岩雄
おもしろい小説（下）愚直では大衆小説は書けぬ　今井達夫
10・31 ② 書評　林房雄の〝結婚の幸福〟　亀井勝一郎
11・2 ② 文藝　デカダンと推理もの　板垣直子
ロシヤの冬と寒さ　ソ連抑留の思ひ出（上）　筒井潔
11・3 ② 戦争創作界の展望（上）　阪東明
同居する「新」と「旧」　ソ連抑留の思ひ出（下）　筒井潔
11・4 ② 戦争創作界の展望（下）　阪東明
片山首相の一文　古谷綱武
思い出す作家　志賀直哉氏　三宅正太郎
11・5 ② 空間はないか（1）　武林無想庵
思い出す作家　谷崎潤一郎氏　三宅正太郎
俳優あれこれ　江間章子
11・6 ② 空間はないか（2）　武林無想庵
思い出す作家　吉川英治氏　三宅正太郎
11・7 ② 空間はないか（3）　武林無想庵
思い出す作家　宇野浩二氏　三宅正太郎
鶏の脚　春野鶴
11・8 ② 空間はないか（4）　武林無想庵
思い出す作家　丹羽文雄氏　三宅正太郎
11・9 ② 文藝日評―219―　エピローグ（1）　林房雄
動と不動　西村孝次
思い出す作家　武田麟太郎氏　三宅正太郎
11・12 ② 文学雑誌の革命　亀井勝一郎
随筆〝忠臣蔵〟見物（下）　秋山安三郎
11・13 ② 第三の英雄　亀井勝一郎
11・14 ② 関西文壇の動き（1）　及川英雄
困る都市偏重　国立劇場設立に就いて　河竹繁俊
ふとん＝中国随筆＝　春野鶴
11・15 ② 文藝　関西文壇の動き（2）　及川英雄
ことばの問題＝新らしい国語の実行

大島義夫

11・16 ② 文藝　釣魚文学（1）　林房雄
文学の輸出と明日の文学　小牧近江

11・17 ② 文藝　釣魚文学（2）　林房雄
デコボコ世相談　伊馬春部
関西文壇の動き（3）　及川英雄

11・18 ② 文藝　釣魚文学（3）　林房雄
当選短篇小説　手術　小林学

11・19 ② 釣魚文学（4）　林房雄
続文壇と十五年　＝思い出す作家の顔
（1）横光利一氏　三宅正太郎
〝話の泉〟こぼればなし　堀内敬三
綿入れ　中国随筆　春野鶴

11・20 ② 続文壇と十五年　思い出す作家の顔（2）
高村光太郎氏　三宅正太郎
裸形の見世物　現代エロチシズム放談
（上）　村上知行
湯たんぽ＝中国随筆＝　春野鶴

11・21 ② 釣魚文学（5）　林房雄
馬琴百年忌　早大図書館長　岡村千曳
日本人の性感　現代エロテシズム放談
（下）　村上知行

11・22 ② 釣魚文学（6）　林房雄
続文壇と十五年　思い出す作家の顔
（3）新居格氏　室生犀星氏　三宅正太郎
停電下の感想　石塚友二

11・23 ② 釣魚文学（7）　林房雄
静物について　内田誠
食事＝中国随筆＝　春野鶴

11・24 ② 技巧と内容＝流行作家の作品　十返肇

11・25 ② 当選短篇小説　秋風　中村俊雄
思いだす作家の顔（4）豊島與志雄氏
三宅正太郎

11・26 ② 創作欲を刺激＝読書週間を顧みて　石井満
ユーモア作家と米映画放談会（上）　獅子
文六　宮崎博史　玉川一郎　乾信一郎　横
山隆一　秋好馨　中原淳一　関千恵子　沢
紀子　及川千代　小林圭樹（以下出席者
略）

11・27 ② 釣魚文学（8）　林房雄
現代不安の追究　菱山修三
ユーモア作家と米国映画放談会（中）

11・28 ② 釣魚文学（9） 林房雄
肖像画の場合 津田青楓
ユーモア作家と米国映画放談会（下）
11・29 ② 釣魚文学（10） 林房雄
最近の関西劇壇 筧一彦
11・30 ② 釣魚文学（11） 林房雄
12・1 ② 釣魚文学（12） 林房雄
12・2 ② 釣魚文学（13） 林房雄
当選短篇小説「鬼っ子」 木村三郎
文藝時評 伝統の再確認 阪東明
没有法子 中国随筆 春野鶴
12・3 ② 釣魚文学（14） 林房雄
文藝時評 原稿料の問題 なぜ短篇小説は
面白くない 伊集院斉
12・4 ② 釣魚文学（15） 林房雄
藝術は蜃気楼 山口長男
文展と前衛運動 東郷青児
12・5 ② 釣魚文学（16） 林房雄
にんにく愛用 中国随筆 春野鶴
12・6 ② 短詩型文化の反省 竹田文雄
邦人に三度冬来る＝東リベリアの寒さ 筒井潔
川柳時評1 川柳作家の輿論調査 石原青龍
文藝時評 〝斜陽〟の意義 十返肇
12・7 ② 川柳時評2 川柳作家の輿論調査 石原青龍
雑誌の氾らん 一九四七年の文壇回顧
12・8 ② （1） 亀井勝一郎
師走の猫（1） 水木京太
川柳時評3 余技に就て 石原青龍
12・9 ② 一九四七年度の文壇回顧（2） 好戦国から
好色国へ 亀井勝一郎
当選短篇小説 分哨の鶏 遠田昭夫
川柳時評4 時事吟に就て 石原青龍
12・10 ② 一九四七年の文壇回顧（3） 健康な文学
亀井勝一郎
師走の猫（2） 水木京太
絵の香り 辻永
12・11 ② 活躍した中堅作家 一九四七年の文壇回顧
（4） 亀井勝一郎
師走の猫（3） 水木京太
ともしび（上） 壺井栄
ほろびしものはなつかしきかな 1 仲木信二

12・12 ② 小説の運命　一九四七年の文壇回顧（5）　亀井勝一郎
文藝時評　小説の面白さ　大竹正巳
ほろびしものはなつかしきかな2　仲木信二
ともしび（下）　壺井栄

12・13 ② 評論界の新人　一九四七年の文壇回顧　亀井勝一郎
（6）
ほろびしものはなつかしきかな 3　仲木信二

12・14 ② 文藝雑誌の読者　一九四七年の文壇回顧　亀井勝一郎
（7）
米映画覆面座談会☆問題の〝失われた週末〟

12・15 ② 一九四七年の文壇回顧（8）当用漢字と新仮名遣ひ　亀井勝一郎
ほろびしものはなつかしきかな 4　仲木信二

12・16 ② 当選短篇小説　狐と狸　山口里津子
不合理に就て　寺崎浩

12・17 ② 文藝　〝兵〟二色　石原裕市郎
アメリカ文学の地方主義（上）都市文化と地方文化　細入藤太郎

12・18 ② アメリカ文学の地方主義（下）作家の地方分布図　細入藤太郎

12・19 ② 権利金　鷲尾洋三
書評　中川一政の二著　武者小路実篤　十返肇

12・21 ② 苦悩にあえぐ
ほろびしものはなつかしきかな5　仲木信二

12・22 ② ましこ焼　伊福部敬子

12・23 ② 文藝　関心＝教師について＝　泉木三樹
当選短篇小説　空洞　津木隆
自殺＝中国随筆＝　春野鶴

12・24 ② 文藝　銅像文化　一城龍彦
ほろびしものはなつかしきかな6　仲木信二
小新聞の氾濫と上海化　石敢当

12・25 ② 作家の印象（1）川端康成氏　三宅正太郎
庶民の生活　村上知行
ほろびしものはなつかしきかな7　仲木信二

12・26 ② 作家の印象　三宅正太郎
ラジオ解説　歴史をたぐる―新聞小説について（上）　船越章
ほろびしものはなつかしきかな8　仲木信二

12・27 ② 作家の印象（3）　三宅正太郎
ラジオ解説　問題は作家の態度―新聞小説について（下）　船越章

風呂＝中国随筆＝　春野鶴
12・28　②　藤村文学の劇化成り　まづ〝破戒〟を上演
十年ぶりで返り咲く　夏川静江
〝破戒〟について＝封建制の過誤を正す＝
川端康成
大きな試練　夏川静江
鼠を語る（上）　藤澤衛彦
風のたより　宇留間敬一
12・29　②　鼠を語る（中）　藤澤衛彦
12・30　②　作家の印象（5）渡邊一夫氏　加藤美希雄
当選短篇小説　喜劇　山口峰三
鼠を語る（下）　藤澤衛彦
12・31　②　作家の秘密＝文学作品のいのち＝
鎌原正巳
明日の探偵小説　江戸川乱歩

※以下の日に発行された号は所蔵がなく、未見。1・12、17。3・11、29、30。5・8、11、25。6・25、26。7・6～8・17。8・24。10・18、20、21。11・1、10、11。また、以下の日には文藝記事がなかった。4・12、21、22、26。5・10。12・20。

【附記】本論はJSPS科研費20K00346および22K00293の助成を受けたものである。

（さいとう　まさお／本学教授）